

余市町

# 安芸遺跡発掘調査概報

余市町黒川第一土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査概報

2001.3

余市町教育委員会

## 例 言

- 1, 本書は、平成 12 年度余市町黒川第一土地区画整理事業に伴う安芸遺跡の緊急発掘調査の概報である。
- 2, 本遺跡は北海道余市町黒川町 367-3,370,371 番地にあり遺跡の登録番号はD-19-19 である。
- 3, 本書の執筆、編集は乾芳宏が行った。
- 4, 発掘調査および整理体制
  - ・発掘調査体制 教 育 長 利 輝夫  
教育次長 江戸栄男  
文化財課業務係長 盛 昭史
  - ・調査担当者 文化財課業務係長 乾 芳宏
  - ・発掘調査 1,764 m<sup>2</sup>
  - ・発掘期間 平成 12 年 8 月 13 日～10 月 20 日
  - ・整理期間 平成 12 年 10 月 23 日～平成 13 年 3 月 30 日
  - ・発掘及び整理作業員 阿部政武・新谷大輔・鎌田忠・北山嘉壽夫・工藤忠幸・菅原勇悦・寺岡重幸・新谷美香・大森朋恵・仲鉢悦子・野田真紀子・
- 5, 遺物の保管  
遺跡から出土した遺物については、余市町教育委員会が保管管理する。
- 6, 発掘調査及び整理作業には下記の方々のご指導、助言および協力を頂いた。  
北海道教育委員会 畑宏明・大沼忠春・田才雅彦・工藤研治、青木延広、仲鉢 浩  
(敬 称 略)

## 凡 例

- 1, 本書は、遺構・遺物の略号及び記号を次のように用いている。
  - (1) 遺構 住居跡 H (House) 土坑 P (Pit)  
墓坑 GP (Grave Pit) 炉跡 F (Fire)  
フレイク集中 FC (Flake Chip)
- 2, 本書は基本的に次のような縮尺としている。
  - 遺構関係 1/20
  - 遺物関係 土器 1/3 土製品 1/2 剥片石器 1/2 礫石器 1/3
 なお、それ以外については縮尺を入れて示した。
- 3, 写真図版の縮尺は任意である。

## 安芸遺跡発掘調査の概要

### 1. 遺跡の立地と層序

余市町内には現在63カ所の遺跡が確認されており、立地として海岸に発達する大川砂丘には縄文時代中期～近世、内陸の黒川砂丘には縄文時代中期～後期、丘陵に縄文時代中期～後期の遺跡が分布する傾向がある。

安芸遺跡は市街地から東方約2kmの位置にあり、登川左岸の標高3mほどの黒川砂丘上に立地している。かつて周辺では土地改良のため土砂採取工事をした際に円形状に石を放射状に並べた遺構が発見されているが詳細は不明である。

発掘区域は土地区画整理事業に伴う町道であり、車道部と歩道部下の上下水道に係る掘削部分を調査した。北側は黒川砂丘の裾にあたり、泥炭層が約4mもの厚さに堆積し、試掘調査において多量の遺物が出土しているため保存地域として道路設計を橋脚工法に変更して保存することとし、砂丘部分のみを掘削のために調査した。

層序は基本的に4層とし、I層は表土、II層は黒色土、III層は暗褐色土、IV層は黄褐色砂となっている。遺物包含層はII・III層であり縄文時代中期から後期にかけての遺物が出土している。当時の様子としては、大川砂丘の形成が始まり遺跡の北側は鹹水、または湿地となっていたことが推測される。



図1 遺跡の位置図 (1:50000)

## 2. 遺構と遺物

現在までこの遺跡の周辺はほとんど調査されたことがなく、この黒川砂丘上における遺跡の状況は不明であったが、今回の発掘調査により、住居跡や土坑跡が発見されたことにより、この砂丘縁辺には集落が形成されていたものと推定される。

この遺跡は縄文時代中期の北筒式から後期のホッケマ式期に相当し、町内で後期の遺跡がまとめて調査されたのは重要である。

遺構では住居跡2軒、土坑13基、焼土19基が発見され、貯蔵と思われる土坑2基が確認された。遺物は約45,000点が出土しており、スタンプ状土製品、石棒などの縄文時代後期を特徴づけるものも多く見られる。

遺跡の性格として、焼土が多く、貯蔵坑が見られることから集落の付近に位置し、屋外における活動の場として利用していたものと考えられる。

周辺の遺跡では南東500mにある登川左岸の標高約30mの台地には縄文時代後期と推定される八幡山ストーンサークルがあり、東約1kmの登川右岸には縄文時代中期後半から後期前半の余市式土器の貝塚と集落の見られる国指定史跡の大谷地遺跡がある。

また、遺跡から東方約3kmでは丘陵上に縄文時代後期の道指定史跡の西崎山ストーンサークル群がある。小樽と余市境界にはストーンサークル群が見られるが集落との関係については判然としていないが、安芸遺跡を例とした場合、集落は低地に形成され、高台には集落を見下ろすようにストーンサークルが造成された可能性がある。

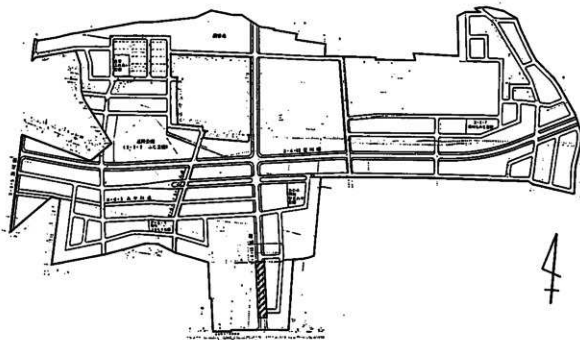


図2 土地区画整理事業区域と発掘調査場所

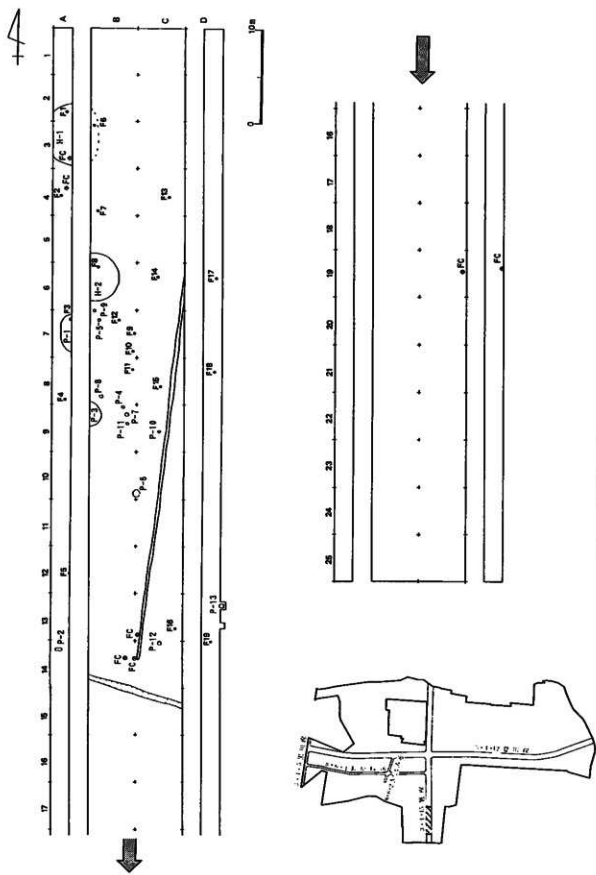


图3 道路平面图

B-14

B-13

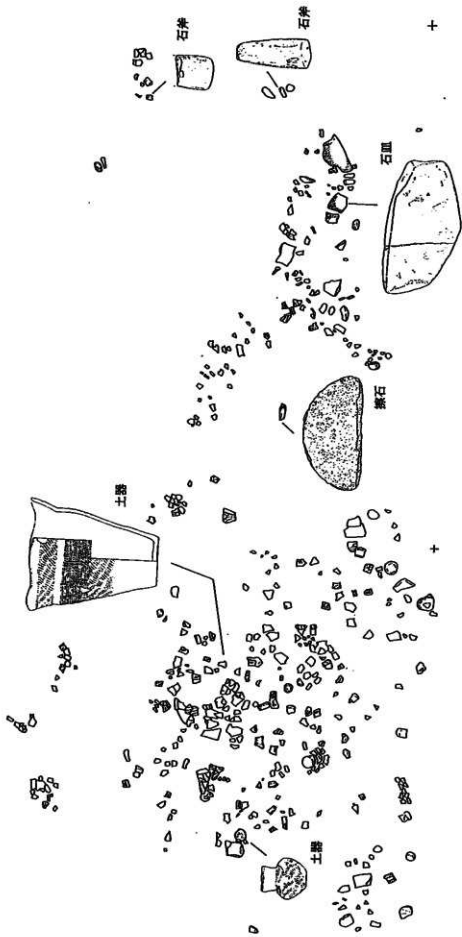


図4 遺物の出土状況 (B-13・14グリット)

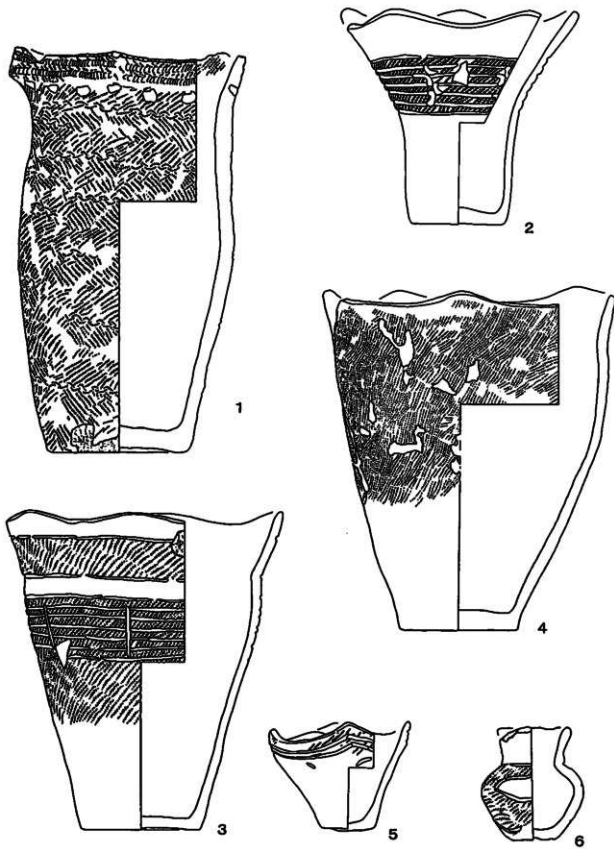


図5 安芸遺跡出土の土器

1: 縄文時代中期 (北筒式)    2~6: 縄文時代後期 (手稻式並行)

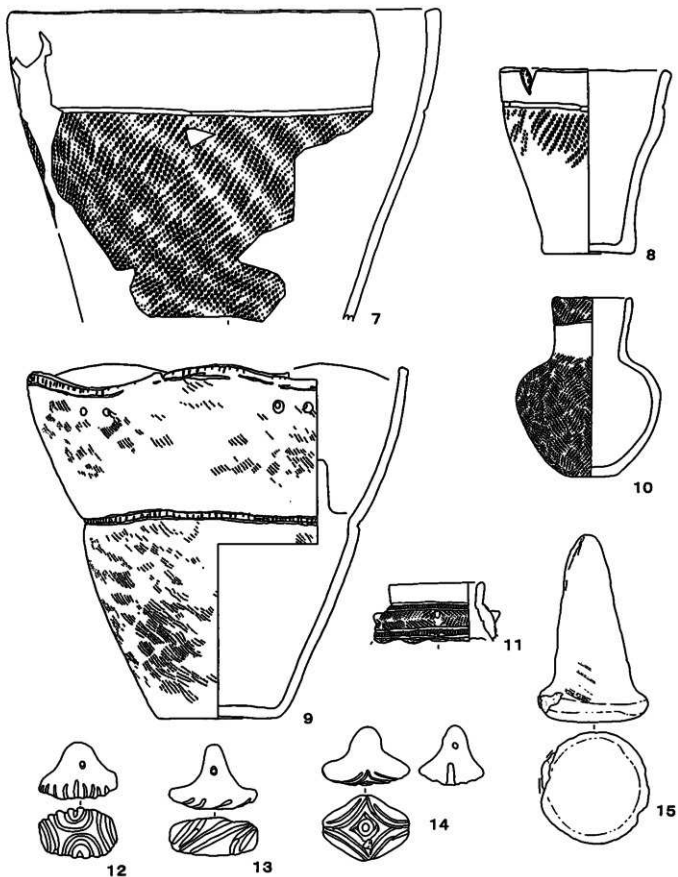


図6 安芸遺跡出土の土器・土製品

7～11：興文時代後期（手摺式並行） 9～11：興文時代後期（ホケマ式並行）

12～14：スタンプ形土製品 15：支脚形土製品



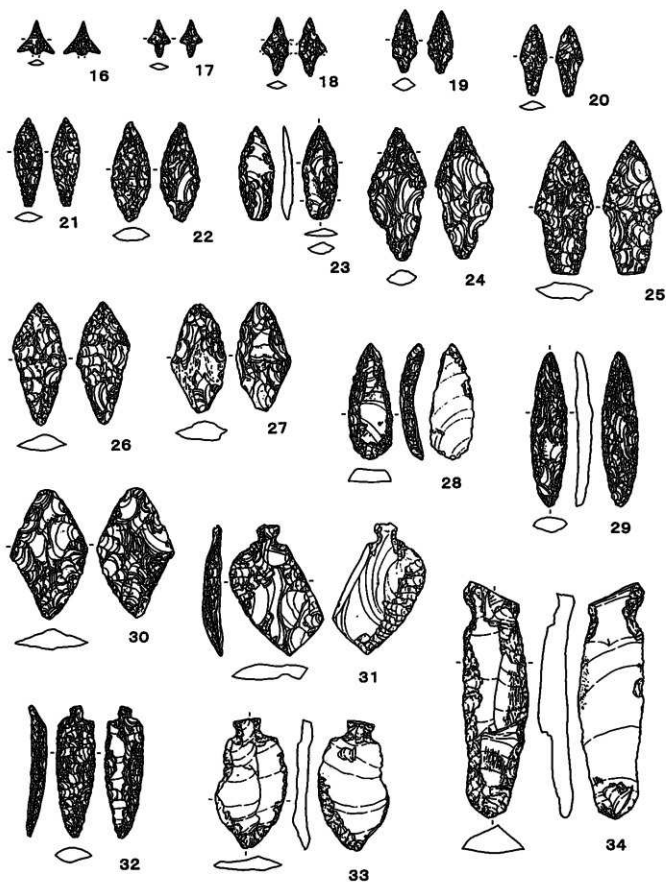


図7 安芸遺跡出土の石器

16~23:石鎌 24~27:石槍 28~34:スクレイパー

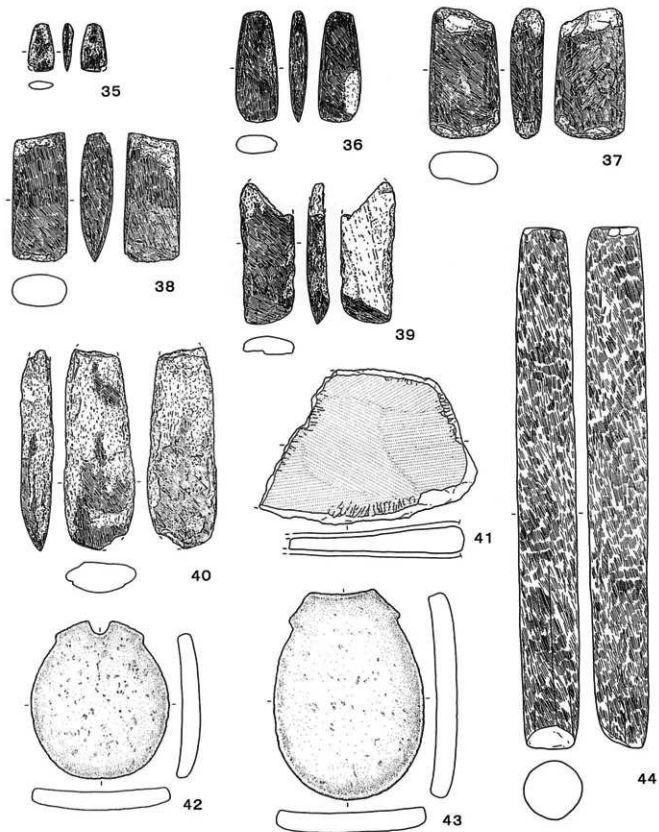


図8 安芸遺跡出土の石器

35~40: 石斧 41: 砥石 42~43: 磨石 44: 石杵



写真1  
発掘調査前の全景(N→S)



写真2  
発掘調査後の全景(N→S)



写真3  
掘調査風景(N→S)



写真4  
遺構の状況・住居跡(H-2)

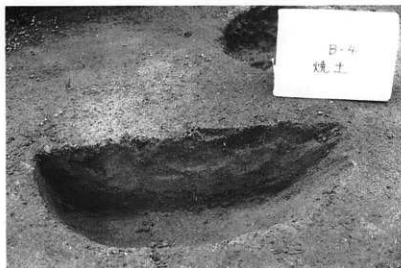


写真5  
遺構の状況・焼土(F-4)



写真6  
遺構の状況・貯蔵用土坑(P-13)



写真7

遺物出土状況(E→W)

B-14グリット II 層



写真8

遺物出土状況・一括土器

C-13グリット III 層



写真9

遺物出土状況・一括土器

A-3グリット III 層



写真10

遺物出土状況・石 棒

D-13グリット III 層



写真11

遺物出土状況・一括土器

C-19グリット III 層



写真12

遺物出土状況・石英質の小石群

C-19グリット III 層

## **安芸遺跡発掘調査概報**

余市町黒川第一土地区画整理事業に  
伴う埋蔵文化財発掘調査概報

発行 平成13年3月30日  
編集・発行 余市町教育委員会

〒046-0015

北海道余市郡余市町朝日町2-6 善地